

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600979		
法人名	株式会社吉兆		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	〒830-0062 久留米市荒木町白口2343-1		
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果確定日	平成30年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営者が 地域に在住し 長年ボランティアや地域役員として活動して 地域に根差し 信頼関係が出来ている 災害時などには協力体制もあり 又 ホームの運営に生かされている 地域の方や中学校等の体験や実習を受け入れている 希望される利用者様にはセラピストによる フットケアを提供している 個々の誕生日には 食べたいものを食べに行ったり 行きたいところに行ったりなどのお楽しみ企画が あ また 職員も 介護や介護以外の研修や勉強が受講できる体制があり 能力やスキルアップに生かされている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から18年目となり、管理者は職員の段階に応じた指導や助言に努め、職員は日々の気づきや状態をチャットで共有し、開所以来の理念である人として生きる喜びを感じられる生活を丸となって支援している。帰宅したいとの思いを理解し、手を止めて寄り添うケアに努め、調査日の園周囲の散歩は短時間であったが、帰宅した入居者たちは満足気であった。医療機関との良好な連携で、1週間前までホームを徒歩されていた方は徐々に衰弱され、家族を中心とした看取りを支援している。職員に「ありがと」と声かけがあったが、「私たちのほうがありがとでした」と管理者は話している。地域密着型サービス事業所として、地域交流を継続し、他同業者職員に実践者研修の場を提供したり、市主催の認知症サポーター養成講座の寸劇では管理者が認知症の人の役を務め、来春の介護フェスタでは職員が研鑽したフットケアやハンドケアを披露する予定で、さらなる地域包括ケアの実践が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 1F／グループホームふきのとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示や回覧により 日常的に理解し実践に取り組んでいるが ベテランと新人職員との差があり 今後の課題としている	廊下や事務所、共用空間などに開所以来の理念を掲示し、管理者は職員の段階に応じた指導や助言に努めている。(認知症の人ではなく)人として生きる喜びを支援したいと職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや敬老会に参加し 利用者様と一緒に参加し楽しんでいる	夏まつりの子ども神輿が今年も巡行し、施設長が役員を務める祭りに入居者4名が参加している。職場体験をした中学生たちからのお礼状が玄関ホールに掲示され、他同業者職員に実践者研修の場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校や介護福祉学科から体験や実習を受け入れている 地域包括支援センター主催の 劇などに出演して協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット 事故報告など説明や報告して 意見交換して また 市役所や地域包括支援センターなど情報共有し サービス向上に生かしている	系列の事業所と合同の運営推進会議は多数の地域代表や地域包括支援センター職員等の出席で開催され、会議録を玄関に公表している。週内で日中の会議のため、家族の参加が難しく、参加者から家族の行事参加状況について質問があった。	系列の事業所と合同の運営推進会議時間を、家族の参加しやすい時間に設定するなどの工夫で、入居者や家族の参加を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや市よりの行事 認知症サポーター研修に参加したり 協力している	認知症サポーター養成講座の寸劇で、管理者が認知症の人の役を務めるなど、日頃から連携に努めている。来春の介護フェスタでは、職員が研鑽したフットケアやハンドケアを披露する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の身体拘束の研修会に参加し理解している ベッド柵や玄関の施錠については 利用者様ごとに 職員と話し合い検討している	センサーや食事用の長いエプロンの使用は家族の了承を得ているが、エプロン使用は毎回本人に意向を尋ねている。外出傾向のある入居者には、家族の了解を得て安全登録ネームを申請している。全入居者の所在確認を毎日5回行い、帰宅したいとの思いを理解し、寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内のみでなく 社外の研修に参加し 持ち帰りホームでの啓発に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加したり 促したりして制度について学ぶ機会を提供している 社協とこまめに相談して連携を取っている	日常生活自立支援事業の利用者があり、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容や違いについて理解している。月1回生活相談員が来所し、入居者の状況を把握している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により 本人や家族に 丁寧に説明し 質問など確認し 納得のうえ 契約している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と 接する時や家族の面会時に意見や要望を聞き 記録し 職員全員で共有 話し合い ケアに反映している	家族の来訪時や定期的なホーム便りの発行、夏祭りや敬老会の案内などの機会に、家族の意向の把握に努めている。玄関に設置した家族アンケートは記載がないのが現状であるが、居室内の整理整頓や生花の活け方をアドバイスされる家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見については 管理者会議で提案し 検討している 個々の職員の悩みや意見などは 管理者が個別に対応している	ユニットやユニット合同の定例会で率直な意見交換が行われ、提案した物品が購入されている。ユニット毎のユニットリーダー、主任、管理者と、職員の意見を反映する組織体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に担当を持たせ 努力や実績を認め 勤務状況に合わせて 労働条件など向上心を持てるようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、性格などを理由に排除していない 働く意思を尊重して 資格なども取得しやすいように配慮している	職員の口コミや民間求人ネット、ハローワークなどを通じて、20歳代から60歳代の男女の職員が就労している。休暇やシフトの希望の配慮で、開所以来や10年も勤めている職員もあり、入職1か月の職員は「(仕事が)楽しい」と笑顔で話している。法人の外郭団体主催のチームビルディング研修受講で職員の自主性や気づきを促進し、新人は管理者と一緒に働きながら時間をかけて育成している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての研修に参加し 現場で利用者様に対して 言葉かけなど 十分に注意をするように 職員間で お互い気を付けている	年間研修計画で身体拘束や虐待に関する研修を実施している。施設長が外部の人権研修に参加し、研修資料を回覧するなど、日頃から人権に関する意識付けを行っているが、介護従事者へのハラスメントの研修も考慮中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者には管理者研修 他職員には それぞれ必要な研修を実施 年間研修計画を作成し 参加している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターを中心に 各事業所合同の勉強会、意見交換会を開催 参加し 質の向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や入所時に 本人の要望や不安なことを聞き 把握して ケアに生かしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時に 家族様等の 要望や不安なことを聞き 把握して ケアに生かしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い 必要としていることの的確な把握に努め 職員全体でカンファレンスを行い 検討してその方の今に合ったケアの提供に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや雑談などをして 一緒の時間を共有したり 食事の手伝いなどをできることを一緒に過ごしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの声かけお誘いをしたり 利用者様の心身の状態報告をして リアルタイムの情報提供につとめる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事など家族に伝えることで 知人や親せきなど情報提供になるよう 又 買い物などに同行し 地域の方と会話したり交流が出来るように 支援している	友人や家族、親族の来訪があったり、定期的に帰省したり、家族が同行して馴染みの美容院に通う入居者もある。職員は、馴染みの場や人の大切さを十分理解しながら、帰宅願望のある入居者の心情を思い遣るケアを実践している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションやドライブなど 声かけて何人かお連れしたり 利用者様同士けんかになりそうなときは 間に入りトラブルが起らないように注意している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなった後も その家族の方と 連絡があり 行事に参加されたり また 近くの道であったときは会話をしたりして 励ましたりして 声かけをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を聞き 意向に反映している 困難な場合は 動向など観察し把握したり 家族に聞いて確認し 把握に努めている	日々の気づきや状態をチャットで共有し、職員を担当制にして、入居者の思いや意向の把握に努めている。誕生日は本人の希望で外でケーキを食べたり、プレゼントを自分で選んでもらったり、園周囲の散歩は随時同行するなど、入居者の意向を重視したケアが行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族に 思いや話を聞いたり これまでの経過を確認し把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の 心身状態の観察をし 把握に努めて職員全体で 共有し ケアに活かしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や家族に困りごとや 要望などを聞き 医療との連携も踏まえて 職員全体で担当者会議やミーティングにおいて検討して その方に合ったケアプランを チームで作成している	入居者や家族の意向、担当職員が作成した原案を担当者会議で話し合い、介護計画の作成や見直しをしている。臀部に褥瘡があり座位保持時間が限られている入居者の食事を美味しく食べたいとの意向に沿った計画が作成され、エアマット圧を状態に応じて調整し、褥瘡悪化を防止している。	明記されている入居者や家族の意向をさらに重視し、理念の生きる喜びを具現化したケアの実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記載したり チャットや 毎日の口頭での申し送りで 伝達をしっかりと行い情報の共有を行なっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が出来ない病院の受診等は その時の内容や状態に応じて 出来るときは対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療面は医者や看護師、薬剤師との連携があり 他は地域のボランティアの方に来て頂いたり 職員の知り合いのボランティアを受け入れて 若いカラオケボランティアの方と利用者様が活気あり楽しんで交流されている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れているが やむえない場合は事業所と家族の話し合いにより 連携医とつなぎ ホームの訪問診療など利用している	入居前からのかかりつけ医に家族と受診される入居者もある。連携医が定期的に訪問し、書面での指示や治療方針を全職員で共有し、適切な医療を受けられるように支援している。歯科診療は治療内容が写真で説明されるなど、家族にも理解しやすい報告書となっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態について 気づきや異常の際は 法人内の看護師が訪問時や 訪問診療の看護師に報告相談し 主治医の指示により対応して頂いている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の生活 病状など 病院担当者に詳しく情報提供し 入院後は利用者様の状態の把握などに努め 病院担当者や家族様と 連絡も密にし相互に情報交換につとめて 退院後の受け入れ体制も考慮している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて その終末期のあり方について 本人や家族と話しあい確認しながら主治医やその他の医療機関との連携を図り 適切な医療や支援が受けられるように取り組んでいる	1年間で2名の看取りに関わっている。1名の方は1週間前まではホーム内を徒歩されていた。徐々に食欲がなくなり、家族が水分を補給したり手足をさするなど、家族が中心になれるように支援している。関わる職員に常に「ありがとう」と声かけがあり、「私たちのほうがありがとうございました」と管理者は話している。家族の方は、現在ボランティアとして、レクレーション等で協力していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時のマニュアルを作成し周知を図っている また 消防士による 救命救急講習を受講 訓練をしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を実施している 夜間は 災害時などの為併せて 宿直者を待機している	消火や夜間対応の訓練を5月に実施し、11月も実施予定である。施設長宅がホームに隣接し、近隣や地元消防団の協力体制が構築されている。飲料水やお米、おむつなどを備蓄している。	昨今の異常気象から、備蓄台帳を整備し、災害対策の充実を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の性格や状況に合わせて 声かけをして 言葉遣いにも気を付けている 自尊心を傷つけないように 入浴時にはバスタオルなどで覆ったり プライバシーに配慮している	個々入居者の心身の状況に配慮し、丁寧な対応が行われている。入浴介助者の選定に配慮したり、入居者間の言い合いにはさりげなく間に入るなど、誇りを損なわない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば食べたいものなどを尋ねて 季節や嗜好に応じてメニューを作成している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や後に 声をかけて いかがですか 困り事なかったですか？と尋ね 本人の思いや希望に沿える様に傾聴し支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る事はして頂き 不足する事や出来ない事を支援している 例えば 歯磨きや櫛を手渡したり 磨きなおをしたり 季節や室温に合った洋服の選択支援やアドバイスを行なっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が メニューをリクエストしたり 希望されるパン食も 取り入れたりしている また おやつも時々 手作りもしている	献立のリクエストもあり、週2～3回の朝食は菓子パンなども準備し残りのパンで作ったフレンチトーストはすぐになくなり、週1回利用している副食のみの配食は開けてみてからの楽しみと好評である。訪問調査日は、季節の炊き込みご飯や入居者が切った食材を話題に、刻み食などもあり入居者は其々のペースで完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格を持っている職員が栄養バランスなど考えたメニューを作成して提供している 個々の口腔、健康状態に合わせた形状など工夫している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まず本人が出来る口腔ケアをして頂き 口腔内を観察し うまく出来ないところを確認して 磨きなおし等の支援を行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	回数の少ない方や訴えない方は 声かけをして誘導している リハパンから失禁パンツに変更したりと 自立に向けた支援や検討を 随時している	3ヶ所にトイレが設置され、排泄が自立している入居者もあるが、入眠剤を服用しているために夜間は尿器を使用している入居者もある。タイムリーな声かけを継続し、自ら「トイレにいこうか」と声をかける入居者もあり、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にバナナやヨーグルト、コーヒー牛乳を取り入れたり おなかのマッサージやストレッチをしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ 本人の希望に沿うようにはしているが 人員体制などで困難なこともある 男性の介助拒否の方には 女性職員で対応している	家族の希望で同性の職員が入浴を支援したり、男性職員の声かけの方が功を奏する男性入居者もある。入居者の体調などを配慮しながら、1日おきの入浴を支援している。入浴と話すだけで拒否する入居者もあり、「体重を測りましょう」、「1対1で話しましょう」などと、声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	褥瘡のできやすい方には 出来るだけ座位を減らし クッションや除圧など行っている ホールで傾眠されている方は 居室に誘導したり また 室温を 適温に調整したりしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個々の お薬や医療管理のファイルがある。主治医や薬剤師による指導があり わからないことなど相談できる体制がある 服薬時や薬を振り分ける時も2人体制にて実施している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好きなことや 出来る事を 職員が把握して できること 例えば トレーを拭いたりホールや居室の掃除機をかけたり して頂いている 時には 歌謡曲をうたったり 音楽を聴かれたりされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	苑内の散歩や 草取りを 自分の気の向いたときにされたり 自由な行動が出来る 雰囲気づくりをしている 近くのスーパーへ職員と一緒に買い物に行くこともある 家族に 正月やお盆などは特に 外出や外泊などの支援 声かけをしている	2月の誕生日イベントは、入居者の希望でペットショップに出かけ、ケーキを食べたり、ほしい品物が購入できるように支援している。日頃は、職員と一緒に近隣のスーパーにパンなどの買い物に出かけている。調査日、園周囲の散歩は短時間で帰ってきたが入居者たちは満足気であった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額は持参されている方がいる 買い物の際は支払い時に支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により 電話など使用時は 取り次いだりなどの 支援をしている 手紙の受け取り 手渡しなどの支援をしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール壁面に 季節や行事に応じた飾りつけをしている 皆さんが よく集まる食堂居間には 強い光を遮るブラインドなど設置している	ホームの建物の外装は名称の「ふきのとう」らしく、みどりのコントラストも鮮やかに一新されている。玄関の棚には入居者の記憶が鮮明な若かり頃の天皇ご一家の写真が掲示されている。1、2階にユニットが開所し、U字型の中央に厨房や共用空間があり、左右に居室が設置されている。1階の中庭の池では飼われた鯉がゆったりと泳ぎ、2階のデッキは洗濯物がたなびいている。明るい共有空間は寛ぎの場となり、アクティビティでは歓声が上がっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの廊下や玄関外にはソファやベンチが置いてあり ちよつと休憩したり 横になったり 会話をしたりされる光景がみられる		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に 自宅などで使用されていた馴染みの深いものを持参して頂き 自分の好まれるように配置されている	各居室入り口は大きな表札が掲示され、開けられた引き戸からベットで寛ぐ入居者が垣間見え、職員が見守りをしている。来訪する長女手造りの壁飾りや家族写真、誕生日記念品を部屋に飾っている入居者もあり、自慢の品々となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を適所に設置したり 利用者様が移動時に 危なくない様にホール内や居室等環境整備に気をつけている 又 トイレには お困り事は声掛け下さい等と張り紙をしたり お風呂には暖簾をかけて 目が付きやすいように工夫している		